



# 2010年度(2011年3月期) 第1四半期 決算説明会

2010年7月30日

**セイコーエプソン株式会社**

©SEIKO EPSON CORPORATION 2010. All rights reserved.

## ■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

---

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

## ■ 本説明資料における表示方法

---

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 千円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

**「マネジメントアプローチ」にもとづく、開示セグメントの変更について**

(2010年度から)

- 「マネジメントアプローチ」の考え方に基づき、  
 2009年度まで各セグメントならびに各事業に売上高比率で配賦をしていた本社費用を  
 2010年度からは「**全社セグメント**」に集約
- 「その他の事業」セグメントで計上していた、グループ向けサービスを目的とした  
 子会社は機能を各事業に移管
- 2010年度予想の説明において、  
 前年度を比較対象とする場合は、2009年度のセグメント損益もあわせて補正

2

**■ 開示セグメント変更**

- 2010年度からは **会計基準の変更により、**  
**「マネジメントアプローチ」によるセグメント情報の開示。**
- 2010年度の実績および予想を、  
**前年度である2009年度と比較して ご説明する際は、**  
**2009年度のセグメントの損益についても**  
**同様の補正。**

1) 2010年度 第1四半期決算

2) 2010年度 業績予想

## 決算ハイライト（第1四半期決算）



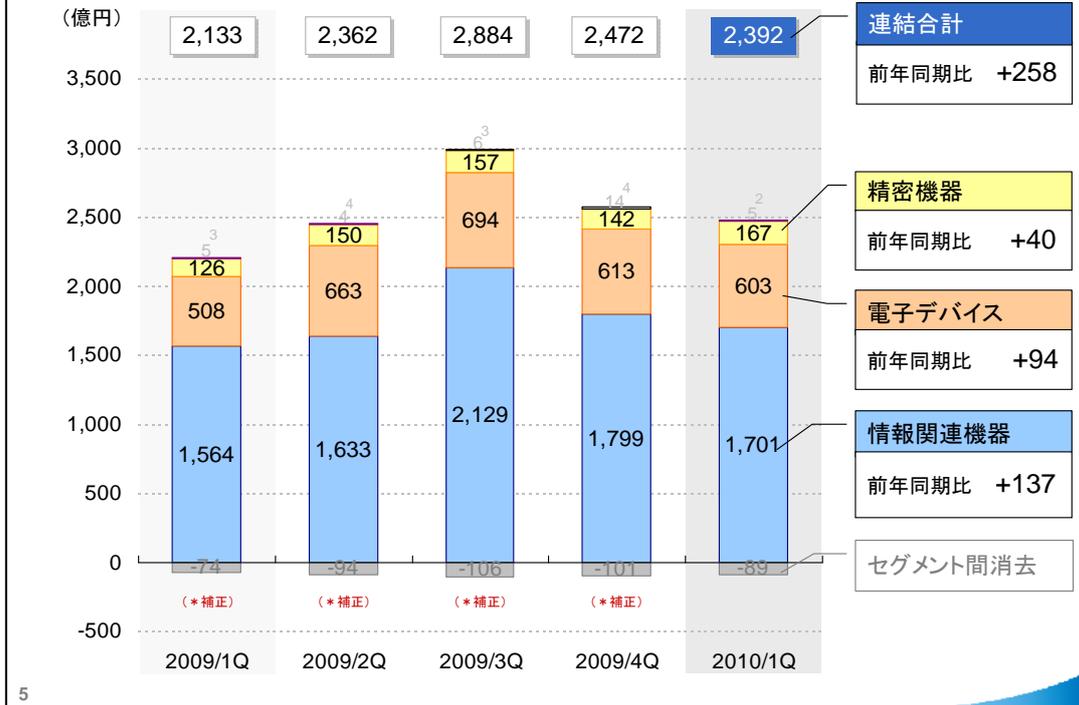
| (億円)      | 2009年度   |         | 2010年度  |      | 増減   |        |
|-----------|----------|---------|---------|------|------|--------|
|           | 1Q実績     | %       | 1Q実績    | %    | 増減額  | 増減率    |
| 売上高       | 2,133    | -       | 2,392   | -    | +258 | +12.1% |
| 営業利益      | △124     | -5.8%   | 107     | 4.5% | +231 | -      |
| 経常利益      | △150     | -7.1%   | 112     | 4.7% | +262 | -      |
| 税引前利益     | △168     | -7.9%   | 107     | 4.5% | +275 | -      |
| 四半期純利益    | △223     | -10.5%  | 79      | 3.3% | +303 | -      |
| EPS       | △113.24円 |         | 39.76円  |      |      |        |
| 換算<br>レート | USD      | 97.32円  | 92.01円  |      |      |        |
|           | EUR      | 132.57円 | 116.99円 |      |      |        |

4

### ■決算ハイライト

- 売上高は、前年同期比 12.1% 増収の 2,392億円。営業利益が 231億円 増益の 107億円、経常利益が 262億円 増益の 112億円、四半期純利益が 303億円 増益の 79億円。
- 前年同期に比べ、大きく 収益改善。
- 期初の社内計画との比較でも大幅に上回った。
- 2010年度の 期初計画において、電子デバイスの需要回復に加え、ビジネス市場向けの需要が 徐々に回復していくことにより、事業環境の好転を想定していた。
- 一方で、欧州を中心に 経済環境が不安定なことに加え、為替変動など、依然として不透明な要素による 事業環境への影響が懸念されたことから、当初の年間目標「当期利益ブレイクイーブン以上の達成」に向け、早い時期からの黒字化を目指し、第1四半期から 利益の積み上げに 取り組んだ。
- 結果、第1四半期は、2009年度から取り組んできた、事業ポートフォリオの転換 および 固定費削減による 事業体質の強化を背景に採算性の高い ビジネス向け製品の回復、ならびに半導体事業を中心とした電子デバイス関連における 想定以上の受注増加による 採算性向上により、社内計画を 大幅に上回った。

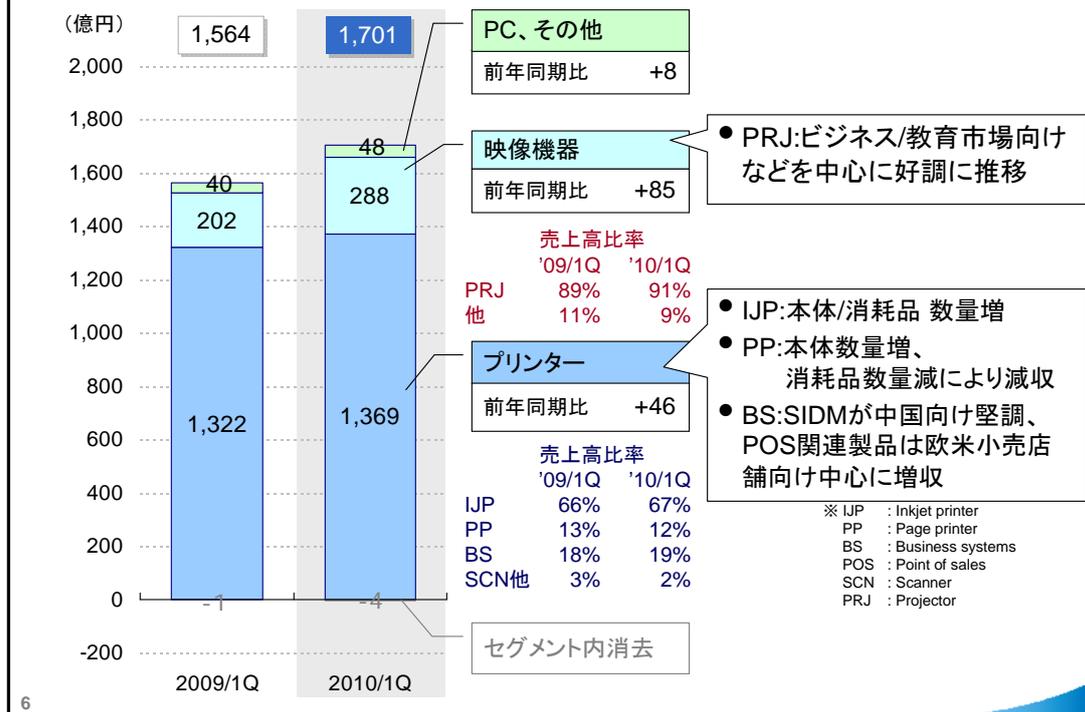
## 四半期売上高推移 ▶ 事業セグメント別



### ■事業セグメント別の 四半期 売上高推移

- 情報関連機器は、前年同期比 137億円の増収、
- 電子デバイスは、前年同期比 94億円の増収、
- 精密機器は、前年同期比 40億円の増収。

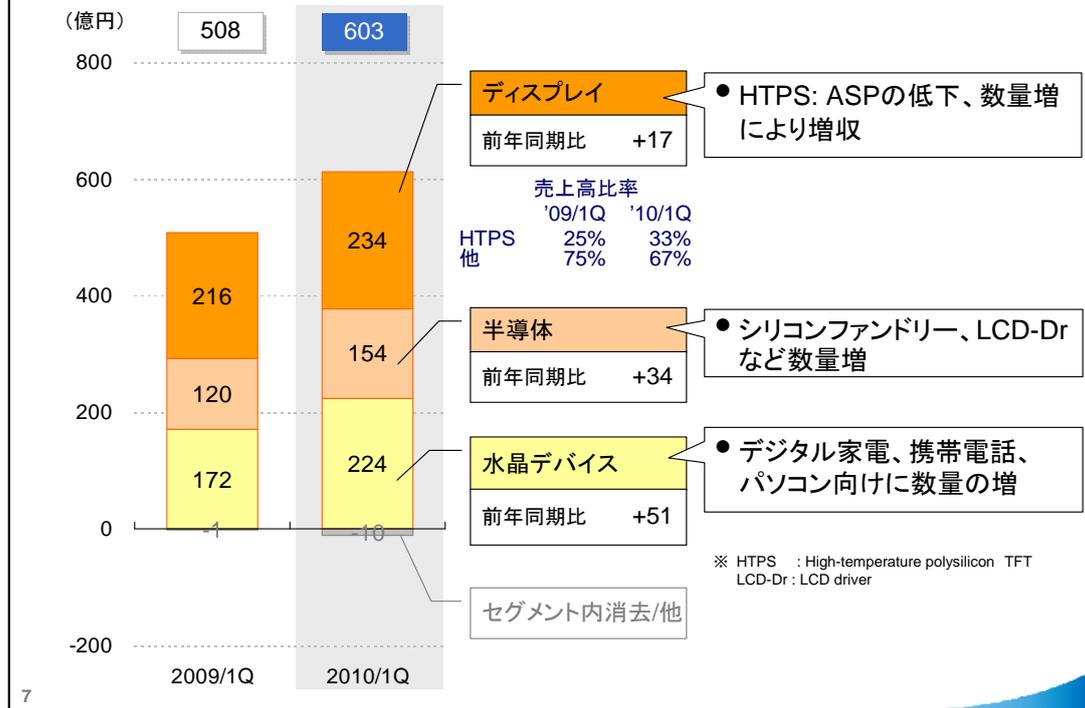
## 四半期売上高比較 ▶ 情報関連機器セグメント



### ■ 情報関連機器事業セグメントの 第1四半期 売上高

- プリンター事業は、前年同期比 46億円の増収。
- インクジェットプリンターは、円高の影響を受けたものの、本体 および 消耗品の数量増加により、増収。各地域において 徐々に市場が回復がする中、当社は、すべての地域で前年に比べ数量を伸ばした。
- ページプリンターは、入札案件などへの 積極的な取り組みにより、欧州、アジアにおいて 本体の数量を伸ばしたものの、消耗品の数量が下回ったこと、ならびに 為替の影響により減収。
- ビジネスシステムは、SIDMが 中国向けを中心に堅調だったことに加え、POS関連製品が 欧米の小売店舗向けに 販売数量が増加したことにより、増収。
- 映像機器は、欧米、アジアにおける ビジネス向け ならびに教育市場向けの 販売が好調だったことと、サッカーワールドカップ向けのプロモーション効果による特需により、前年同期比 85億円の増収。
- 期初の社内計画との比較について。
- インクジェットプリンターは、ビジネス用途向けを含め、本体、消耗品ともに、堅調に推移し、ほぼ計画どおり。
- ビジネスシステムは、SIDMの 中国向け徴税需要や インドなどにおける銀行向けの需要が、またPOS関連製品の 中国における 銀行向け tender 案件などがいずれも堅調だったことにより 計画を上回った。
- ページプリンターは、欧州やアジアにおける tender 案件の獲得などにより、計画を上回った。
- 映像機器は、米州や 中国において プロジェクターの販売が好調だったことにより、過去最高の販売数量を達成、計画を上回った。

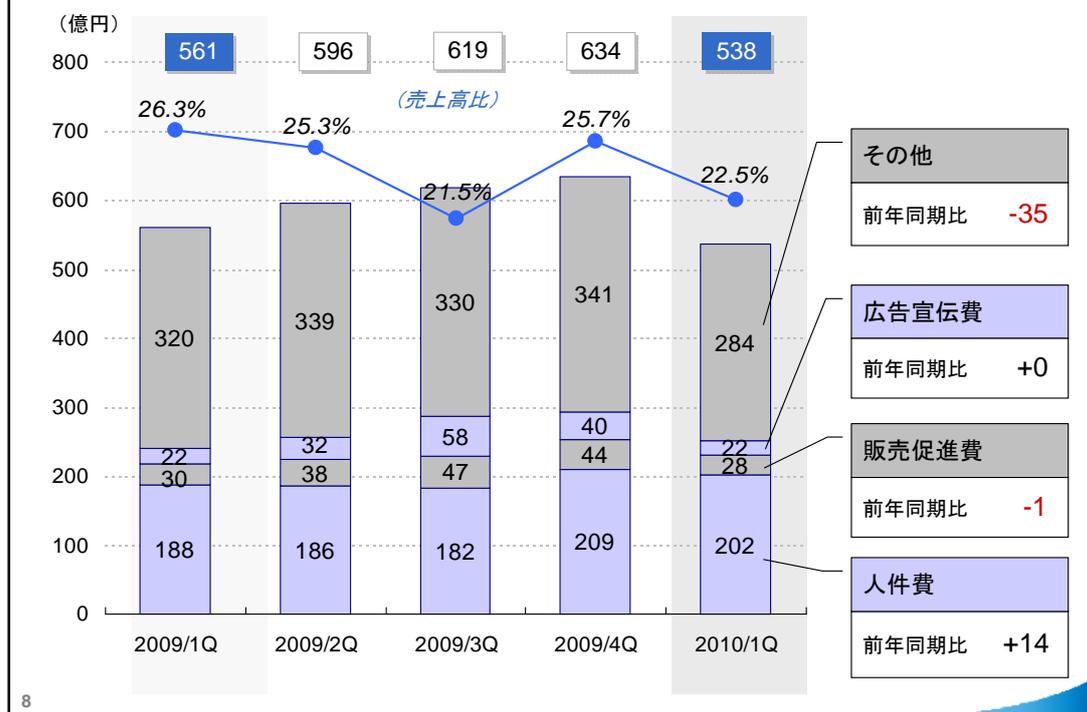
## 四半期売上高比較 ▶ 電子デバイスセグメント



### ■ 電子デバイス事業セグメントの 前年同期比較

- 景気の回復により、需要が堅調に推移したことで、水晶デバイス事業、半導体事業、ならびにディスプレイ事業の、すべての事業において 前年同期に比べ、増収。
  - 水晶デバイスは、ASPの低下は あったものの、デジタル家電、携帯電話、パソコン向けを中心とした数量の増加により 51億円の増収、
  - 半導体は、需要の急激な回復によるシリコンファブリーやドライバーの数量の増加により 34億円の増収。
  - ディスプレイ事業は、前年同期比 17億円の増収。
  - プロジェクター向けの HTPSが ASP低下の影響を上まわる 数量の増加により増収。
- 
- 期初の計画に対して、想定していた以上に 電子デバイスの需要が 堅調だったことにより半導体、水晶デバイス、HTPSは、計画を上回った。

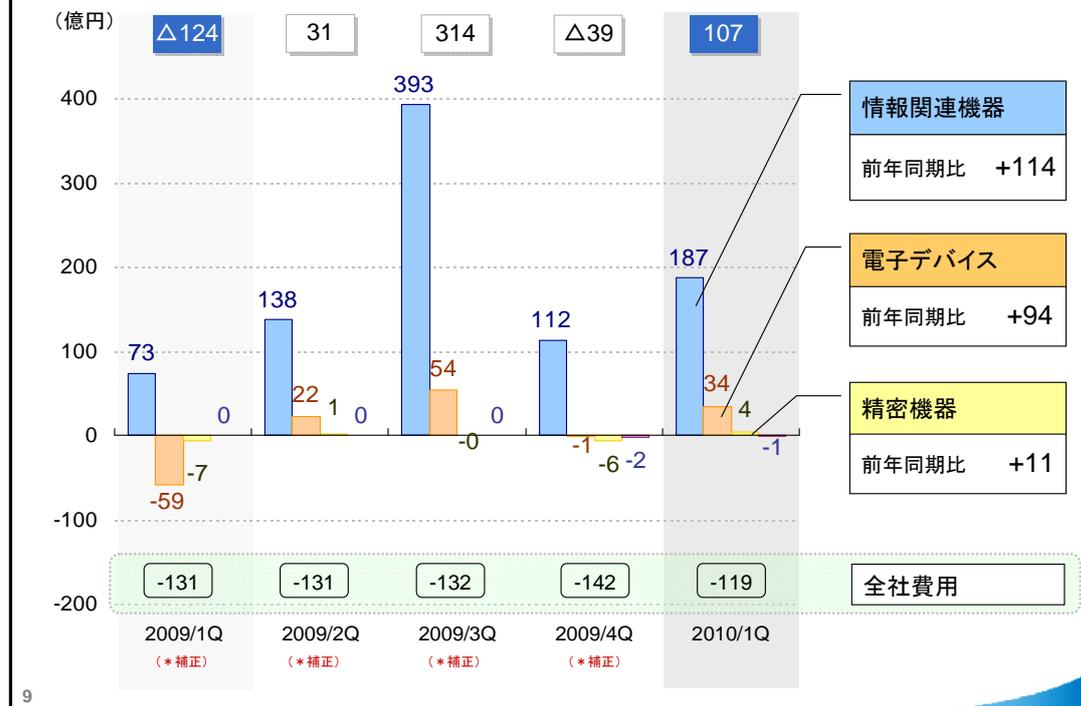
## 四半期販売費及び一般管理費推移



### ■販売費及び一般管理費の四半期推移

- 費用の効率的な執行につとめたことなどにより、前年同期と比較して、22億円の減少。

## 四半期営業利益推移 ▶ 事業セグメント別



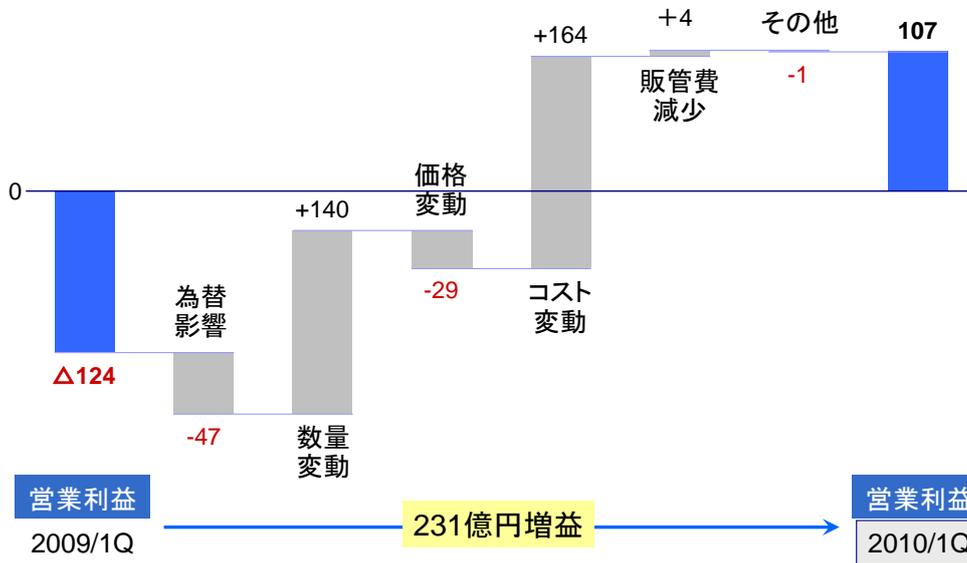
### ■ 事業セグメント別の 四半期営業利益推移

- 情報関連機器は、各事業において増収となったことにより、前年同期比 114億円増益の 187億円。
- 電子デバイスは、前年同期比 94億円増益の 34億円。
- 半導体、水晶デバイス、ディスプレイの各事業における増収効果に加え、稼働率の上昇による採算性の改善で、増益。
- 期初の社内計画に対して、情報関連機器、電子デバイスセグメントともに、計画を上回った。
- 情報関連機器は、各事業 総じて堅調に推移、特に、ビジネスシステムやプロジェクターなどビジネス市場向け 製品の増収により、収益性が高まった。  
インクジェットプリンター事業を中心に変動比率の改善、費用の効率的な執行を含む 事業全般でのコストダウンに加え、これから迎える 第2四半期以降の 本格的な商戦期におけるタイムリーで、より効果的な執行のために 一部の費用を先送りしたことにより、社内計画を上回った。
- 電子デバイスは、半導体事業の増収に加え、稼働率向上による採算性の改善などにより、社内計画を上った。

## 営業利益増減要因分析



(億円)



\* 2009年度損益については、旧基準による損益を使用

10

### ■ 営業利益の前年同期比、増益額 231億円について要因を分解(参考)

- 2009年度 第1四半期の営業損失 124億円 に対し、為替影響、価格変動による 減益要因があったが、コスト変動、数量変動の 増益要因により、当四半期営業利益は 107億円。

## 貸借対照表主要項目推移



11

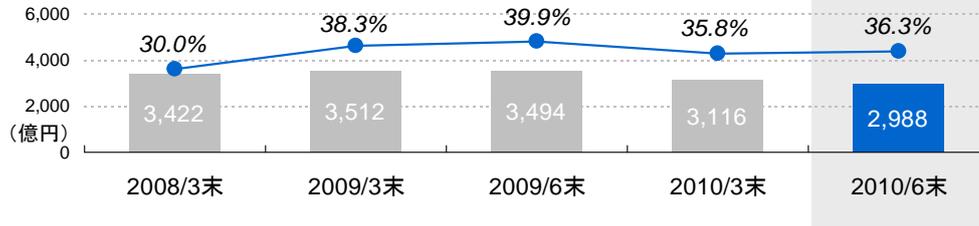
### ■ 貸借対照表の主要科目

- 総資産は、短期借入金返済を進めたことなどにもなう 現金および現預金が減少したことなどにより、471億円減少。

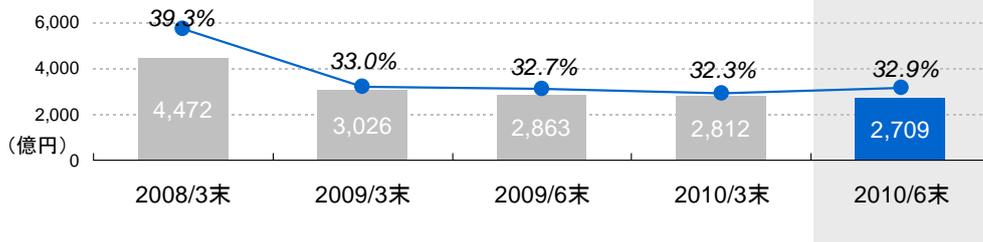
## 貸借対照表主要項目推移



### 有利子負債・有利子負債依存度



### 自己資本・自己資本比率



\*有利子負債=2008年度からリース負債を含む  
\*自己資本=純資産合計-少数株主持分

12

### ■貸借対照表の主要科目

- 有利子負債は、前期末に比べて、128億円減少、総資産の有利子負債依存度は 36.3%。ネット有利子負債は、760億円。
- 自己資本は 103億円減少し、自己資本比率は 32.9%。

1) 2010年度 第1四半期決算

2) 2010年度 業績予想

■2010年度の業績予想

## 2010年度業績予想 ▶ 前期同期比



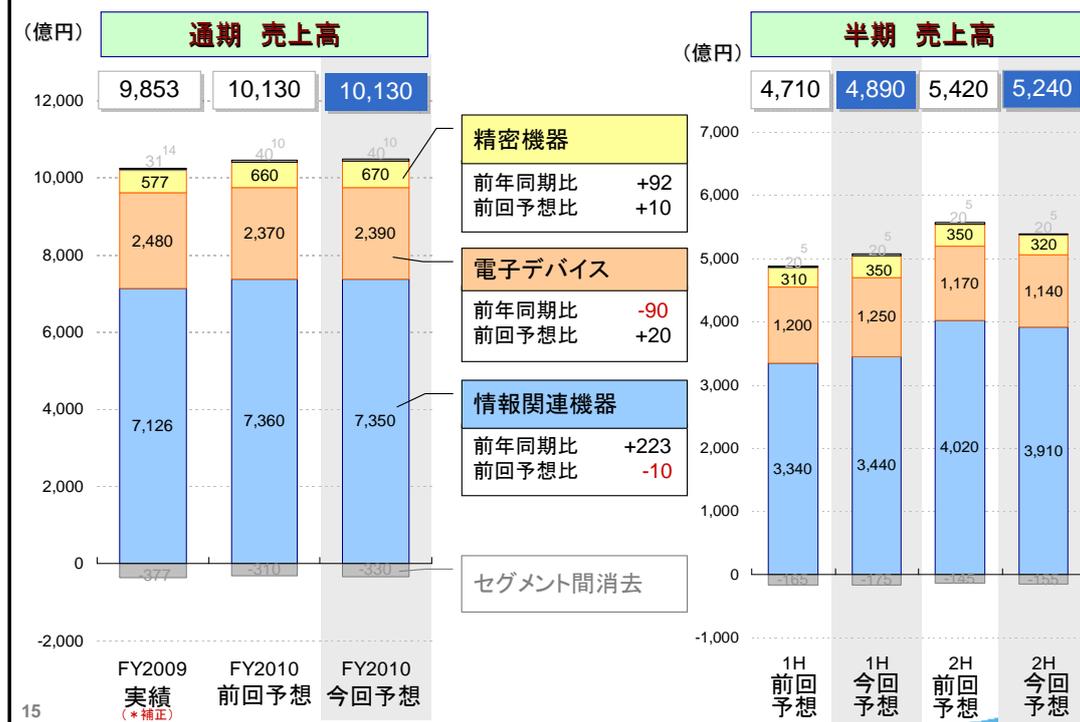
| (億円)      | 2009年度      |             | 2010年度      |      |             |      | 増減額 / 増減率   |       |
|-----------|-------------|-------------|-------------|------|-------------|------|---|-------|
|           | 実績          | %           | 前回予想        | %    | 今回予想        | %    | 前期実績比   | 前回予想比 |
| 売上高       | 9,853       | -           | 10,130      | -    | 10,130      | -    | +276<br>+2.8%   | -     |
| 営業利益      | 182         | 1.8%        | 270         | 2.7% | 270         | 2.7% | +87<br>+48.1%   | -     |
| 経常利益      | 138         | 1.4%        | 240         | 2.4% | 240         | 2.4% | +101<br>+73.0%  | -     |
| 税引前利益     | △7          | -0.1%       | 120         | 1.2% | 120         | 1.2% | +127<br>-   | -     |
| 当期純利益     | △197        | -2.0%       | 0           | -    | 0           | -    | +197<br>-   | -     |
| EPS       | △99.34<br>円 |             | 0.00<br>円   |      | 0.00<br>円   |      |   |       |
| 換算<br>レート | USD         | 92.85<br>円  | 85.00<br>円  |      | 87.00<br>円  |      | 2010年度 第2四半期以降の<br>予想前提レート<br>USD: 85.00円<br>EUR: 110.00円 |       |
|           | EUR         | 131.15<br>円 | 125.00<br>円 |      | 112.00<br>円 |      |   |       |

14

### ■ 2010年度業績予想

- 業績予想を、第1四半期の実績 ならびに各セグメントの今後の見通しを踏まえ、第2四半期以降の為替前提を USDは引き続き85円 ユーロについては110円とし、セグメント別損益、ならびに上期 / 下期の 半期別損益を見直した上で、通期予想は 前回予想を据え置き。
- デバイス市場における好調な需要や、ビジネス向け製品の回復などにより、事業環境は好転しつつある。
- 一方で、足元では為替の変動や、欧州を中心に景気動向が不安定なことなど、下期に向け、いまだ不透明な要素が点在。
- このような事業環境の下にあっても、今期 2010年度は、「SE15」ビジョン達成に向けた中期経営計画の2年次として、「確実に 利益が確保できる企業体質の定着」を目指し、特に損益面では、当期純利益のブレークイーブン以上を達成することに、経営として強い意思、こだわりをもって、取り組んでいる。
- 今後も、各事業において 定めた戦略を着実に推進するとともに、継続して事業体質の強化に取り組む。

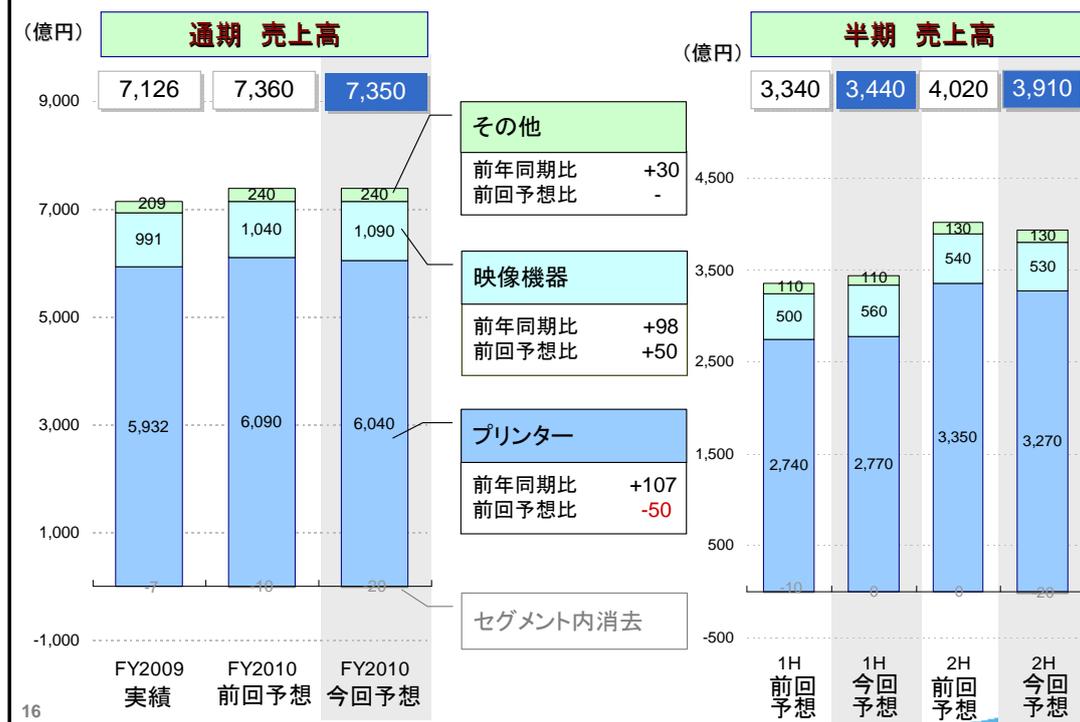
## 2010年度業績予想(売上高)▶事業セグメント別



### ■事業セグメント別の売上高予想、ならびに、上期 / 下期別の内訳

- 情報関連機器の売上高は、第2四半期以降、特に下期においてインクジェットプリンターがユーロ安の影響を受けると想定されるため通期では、前回予想から 10億円下方修正。
- 電子デバイスの売上高は、足元の好調が 第3四半期まで持続すると見込まれるため、通期では前回予想から 20億円上方修正。

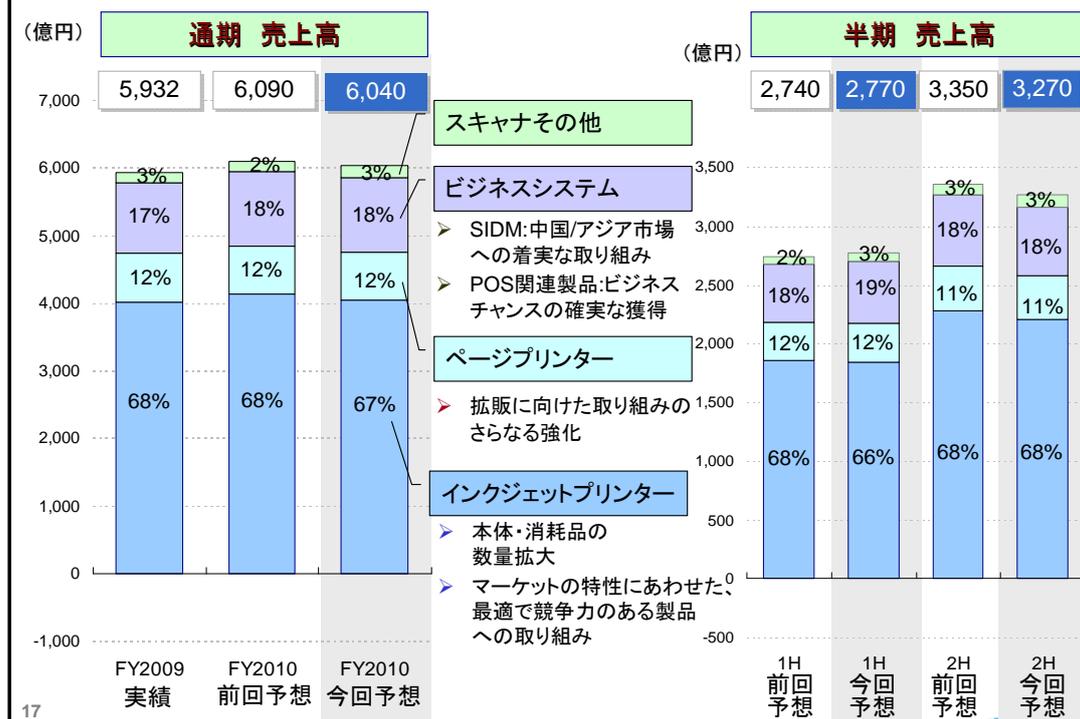
## 事業別売上高予想 ▶ 情報関連機器セグメント



### ■ 情報関連機器事業セグメントの事業部門別売上高の内訳

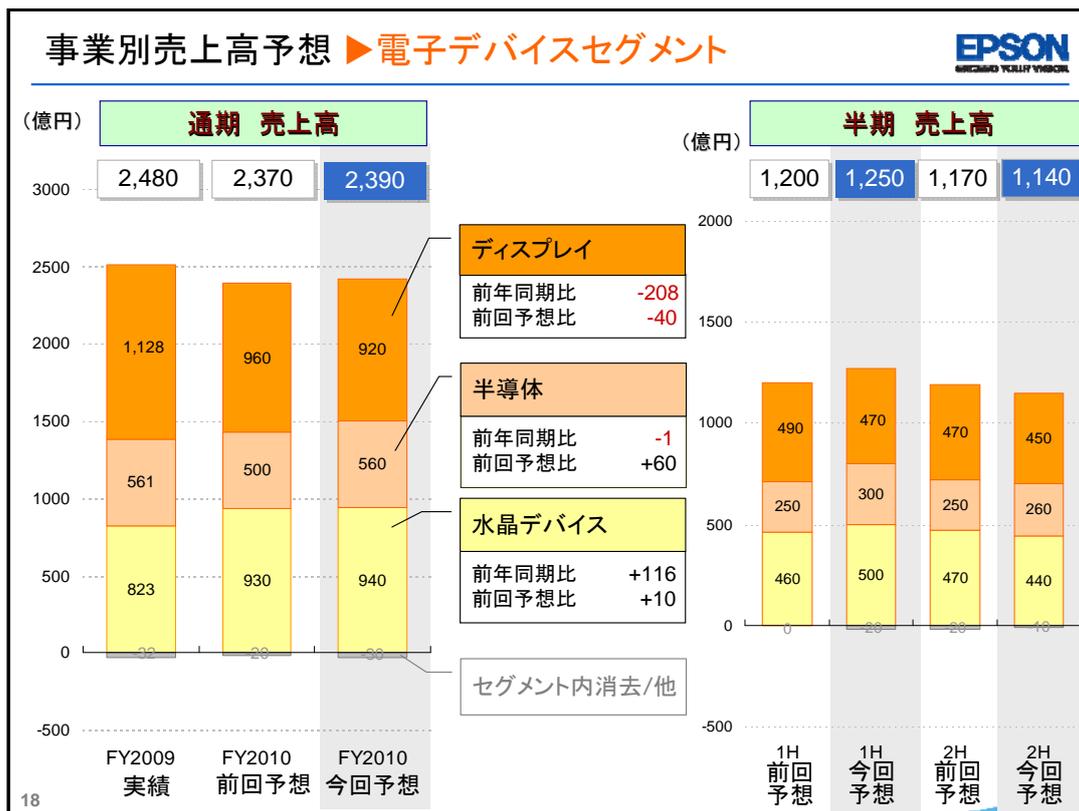
- 映像機器事業は、プロジェクター市場が、足元では想定を上回る回復。当社は、お客様のご要望にあった商品をご提供することで、シェアを伸ばしながら、No.1ポジションを維持。
- 下期においては、ユーロ安を想定しているが、通期では、前回予想を 50億円上まわる 1,090億円を予想。

## 事業別売上高予想 ▶ プリンター事業



### ■ プリンター事業の製品別売上高の内訳

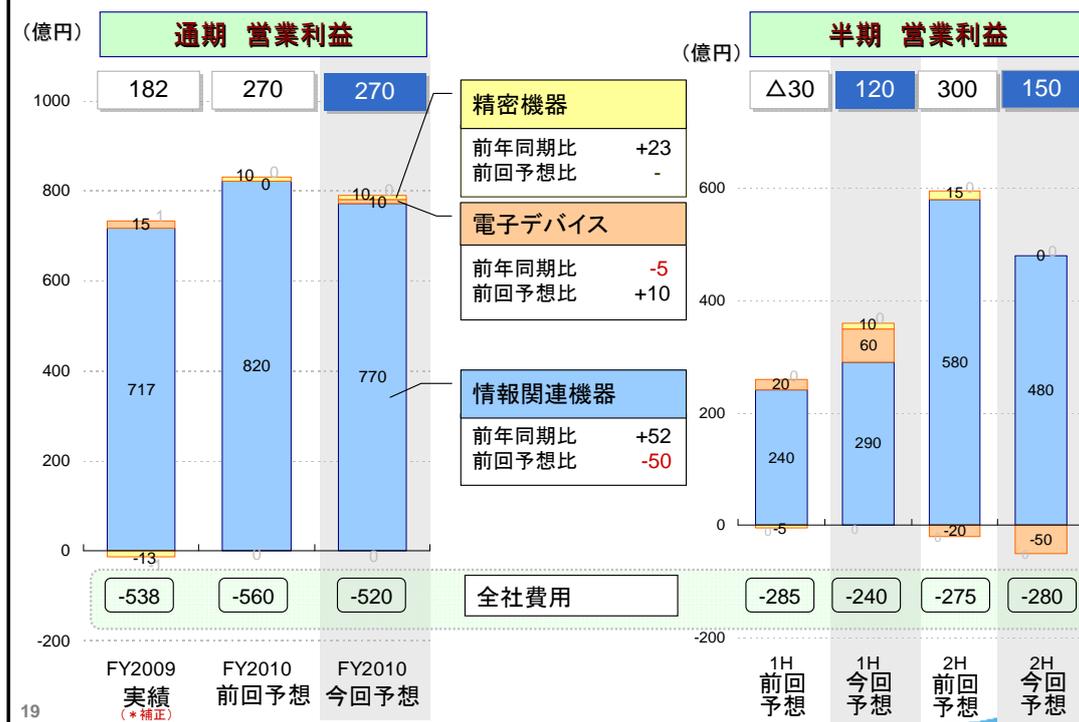
- ▶ 前回予想を 50億円下まわる 6,040億円を予想。
- ▶ インクジェットプリンターは 下期の商戦期に向け、マーケットの特性や お客様のご要望にあわせた、最適で競争力のある製品を投入していく。本体数量は 2009年度比 10%以上の増加を計画。ユーロ安の影響を反映し、売上高を下方修正。
- ▶ ページプリンターも、同様に為替の影響を 反映。
- ▶ ビジネスシステムは、引き続きSIDMが 中国 および アジア市場で好調なことなどから、ユーロ安の影響はあるものの、売上高を 上方修正。



#### ■ 電子デバイス事業セグメントの事業部門別売上高の内訳

- 水晶デバイスは、デジタル家電や携帯電話向けを中心に強い需要が継続するが、現時点では第4四半期において不透明な要素もある。  
通期売上高は 前回予想から10億円上方修正。
- 半導体は、足元の旺盛な需要を反映して、通期売上高を60億円上方修正するが、第4四半期での不透明感を勘案し、下期売上高は前回予想から10億円上方修正。
- ディ스플레이は、HTPSが社内向けプロジェクターを中心とした需要増などを見込むが、通期売上高を40億円下方修正。

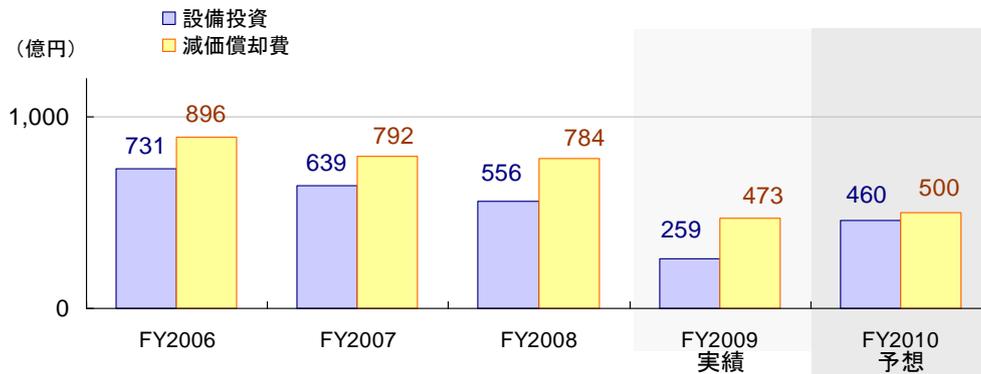
## 2010年度業績予想(営業利益)▶事業セグメント別



### ■営業利益の事業セグメント別予想と、上期 / 下期別の内訳

- 情報関連機器は、売上高同様、特に下期においてユーロ安の影響を受けるものと想定されることから、通期営業利益を 前回予想から 50億円下方修正。
- 電子デバイスは、足元から第3四半期までの好調な需要を反映して、上期は上方修正するものの、第4四半期の 不透明感を考慮して、通期では 10億円の上方修正。
- 全社費用は、従来から継続してきた効率的な費用執行を徹底し、通期で 40億円の改善を見込む。

## 設備投資・減価償却費予想



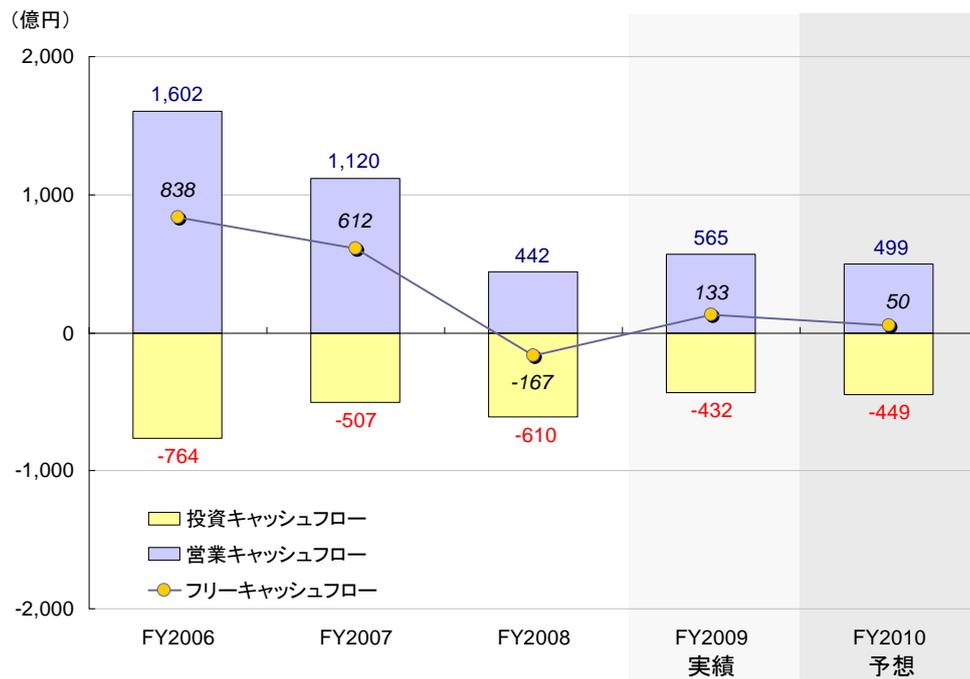
| <セグメント別内訳> | FY2009実績 |       | FY2010予想 |       |
|------------|----------|-------|----------|-------|
|            | 設備投資     | 減価償却費 | 設備投資     | 減価償却費 |
| 情報関連機器     | 125      | 244   | 210      | 260   |
| 電子デバイス     | 98       | 104   | 180      | 120   |
| 精密機器       | 18       | 39    | 30       | 40    |
| その他・全社費用   | 16       | 85    | 40       | 80    |

20

### ■ 設備投資と減価償却費想

- 期初計画から変更なし。

## フリーキャッシュフロー予想

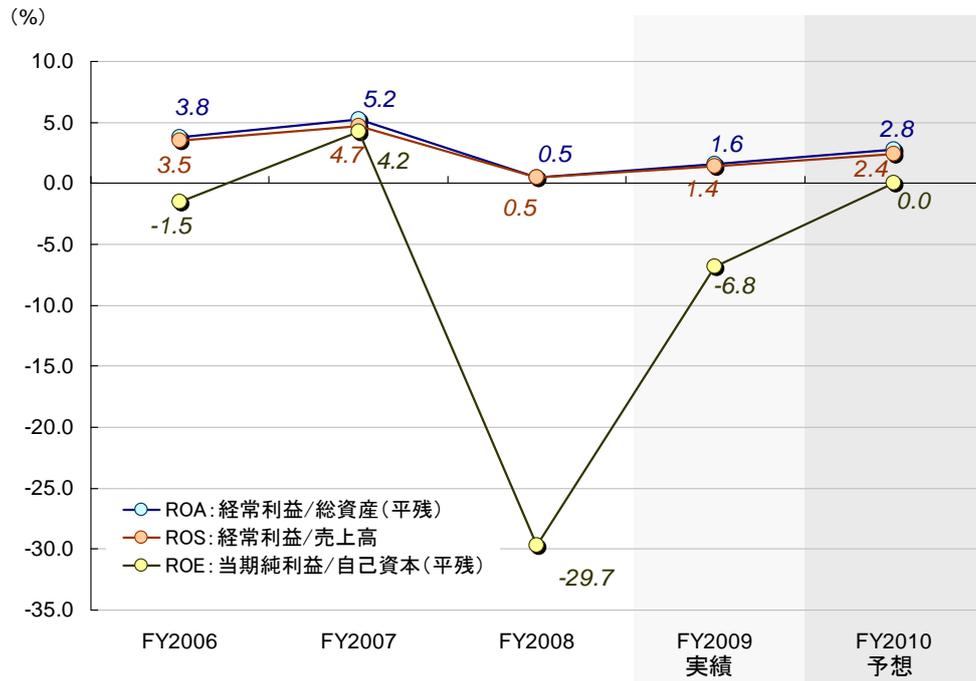


21

### ■ キャッシュフロー

- 期初計画から変更なし。

## 主な経営指標の推移



22

### ■ 主な経営指標

- 期初の予想から変更なし。

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION